

## 大雪山国立公園連絡協議会

### 大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会（第2回）議事録

■日時 令和5年2月8日（水）13：30～16：00

■場所 せんとびゅあ I （オンライン会議システム併用）

■出席者 資料のとおり（NPO 法人かむい欠席）

#### ■概要

##### 1. 開会

■大雪山国立公園管理事務所（以下「事務局」） 広野

本日は大変お忙しい中出席いただきお礼申し上げます。

昨年5月に設立された山岳トイレ等検討作業部会（以下「作業部会」）が7月に開催され、構成員の方々から課題事項を提出していただき、課題事項全体を共有できた。

本日2回目の作業部会の大きな課題として、一つ目はこの作業部会の基本的な進め方について、二つ目は前回提出していただき事務局にて整理した課題を今後どのように進めどを優先して検討するかについて、また、第3回以降に議論いただく課題についても、みなさまに具体的な議論をお願いしたい。

さらに、今年度、白雲岳・忠別岳トイレの再整備について設計を進めていることについて、みなさまのご意見をいただきたい。

今後の作業部会に専門知識のあるコーディネーターを置くべき、というご意見により、後ほど事務局よりコーディネーターの選任について提案をする。

みなさまの積極的なご意見をお願いしたい。

##### 2. 議事

#### ■事務局

資料の訂正について、参考資料大雪山国立公園旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務の資料は参考資料1、大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の設置についての資料は参考資料2と訂正する。

本日は、北海道地方環境事務所より自然環境整備課の高木・瀬川、また令和4年度大雪山白雲岳避難小屋公衆便及び忠別避難小屋の設計業務を実施している株式会社田辺構造設計・田辺氏、小宮山氏がWEBで、また大連協携帯トイレサニタクリーンを製造している株式会社総合サービス・高橋氏が会場にて傍聴されていることをご了承いただきたい。

本作業部会の進行にコーディネーターの選任のご提案があり、事務局としてもより活発なご意見をいただき、円滑な進行を期待できるという観点から、大雪山山岳トイレ問題を古くから研究し、経緯等をよくご存じの北海道大学・愛甲先生をお願いしたいと考えている。みなさまのご意見はどうか。

（拍手(賛成)）

■北海道大学大学院農学研究院 准教授愛甲氏(以下「愛甲氏」)

コーディネーターを務めます愛甲です。みなさまからの意見を広く受け入れて、トイレについて再び勉強し直し、またたくさんの課題がある中で、みなさまと一緒に議論をしていきたいと思っている。改めまして、今後ともよろしくお願ひしたい。

(1) 大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の進め方について

■事務局

作業部会の進め方について、資料1より説明。

■愛甲氏

ただいまの発言の作業部会の進め方についてご意見・ご質問のある方、発言をお願いする。

■山のトイレを考える会 小枝氏

今回の作業部会の出欠票に、「作業部会の進め方についての意見」を書く欄があったが、各団体から提出された意見について紹介していただきたい。

■事務局

今回の出欠票では、2団体からご意見をいただいている。一つ目は、作業部会の基本的な進め方については支持する。しかし、野営指定地については見直しが必要、野外でのし尿行為は破壊行為と一緒にあるので、ルールを明文化すべきであるというご意見。二つ目は、基本的な対応方針について各構成員間に共通認識が必要であり、課題に対し具体的な例を交えた説明が必要である。作業部会の年間予定回数、開設時期についてもイメージを共有したい、また作業部会で検討されなかった具体的実行案がでてきた場合について、作業部会後どのように進めていくか手順を決めておく方がいいのではないか、白雲岳と忠別岳の付帯トイレの進捗はどうかというご意見である。

■愛甲氏

今回の資料において、各団体からの意見が反映されている部分について説明していただきたい。

■事務局

今回、提出されたご意見を受けて資料に反映した箇所は、カミホロカメットク避難小屋の付帯トイレについても検討課題なのではないのかというご意見であり、資料1に付け加えた。

作業部会の開催時期のイメージとしては、シーズン前と、シーズン後の二回程度の開催を予定している。

■北海道山岳整備 岡崎氏

前回の作業部会から言われている中長期のビジョンの長期のビジョンとは一体何なのか？携帯トイレ宣言が出されたときから携帯トイレを普及していくことは理解できるが、長期的に携帯トイレを普及していくことは携帯トイレだらけの大雪山に

なってしまうのか、環境にも登山者にとっても本当に良いのだろうかという疑問に思う。長期のビジョンがすすめられないまま目先のことがすすめてられていくのはどうかとを感じる。私の長期的なビジョンとしては、生態系が変わらず、利用と保全のバランスが取れている状態であるが、山にトイレがあることによって高い経済効果を望める可能性もある中で、携帯トイレばかり進めても良いのだろうかと感じている。携帯トイレの普及で生態系の改善が見られたのであれば、長期的なビジョンの修正やもっといい方法へ向けての議論ができる余地があると良いのではないかと。

#### ■事務局

中長期の取組内容については即答できないが、携帯トイレブースを必要などころに設置していくことはどちらかと言えば短期的な取組に入り、携帯トイレを普及し大雪山で携帯トイレを使うことを登山者に浸透させていくという部分では中長期的な視点が必要と考えている。保全という観点から、トイレ踏み分け道の植生の復元について、利用動向をモニタリングし、フォローしていくのは中長期的考え方であると考えている。この後、資料2でそれぞれの課題に対する対応方針の中でどれが中長期的な課題となるのか、みなさまに議論いただきたい。

#### ■岡崎氏

承知した。今後も意見を出していく。

#### ■愛甲氏

資料1の別添「管理運営計画(案)」の中、野外のし尿排泄の取組事段4段落目、「ただし、」以降、常設トイレの維持管理が不能になった場合について、常設トイレの更新、新しい常設トイレの検討について書かれていることから、このようなことが長期的な考え方とみている。技術的な問題のある山岳トイレについて、短期的にまずは携帯トイレを普及するということから取組を始めた。岡崎氏の意見はもっともであり、最終的にどうするのか考えていかなければならない。

### (2) 検討課題の整理について

#### ■事務局

作業部会の進め方について、資料1より説明。

#### ■山のトイレを考える会 仲俣氏

回収ボックスが必要と思われる登山口が約16箇所あるが、原始が原、天人峡、沼ノ原の登山口等の回収BOX未設置場所の必要性について、この作業部会で検討していただきたい。特に沼ノ原は登山者も多い場所なので優先していただきたい。トムラウシの短縮登山口の回収BOXのゴミ捨て問題に関して、十勝岳方面では回収BOXの鍵をカラビナに変えた後、ごみが入ることが減った事例を参考にしたい。

#### ■事務局

回収BOX未設置箇所について、検討したい。

■愛甲氏

登山口に携帯トイレ回収BOXがないことで、登山口に使用済携帯トイレを置いて帰る人が多い。また、回収BOXにゴミを回収するのも大変なところも多いので、検討課題としていく。

■層雲峡ビジターセンター 佐久間氏

携帯トイレ回収BOXについて、最終的に処分するときどのように回収し、回収業者はどんなことに困っているのかについて知りたい。どんなに啓発しても不心得の人に無駄だと感じているので、仲俣氏の提案のような、鍵をカラビナに変更することは有効である。しかし、トイレ回収BOXと一緒に入っている下着などは最終的には燃やしてしまえば問題はない気がする。

このトイレ回収BOXの問題は啓発ということではなく、物理的なやり方で対応する、例えば簡単にゴミを捨てないためにハードルをあげる様なやり方か、あらかじめゴミが入っているという前提での回収にすれば良いのではないか。

■山岳レクリエーション管理研究会 山口氏

トイレは利用者の利便性の向上ではなく、大雪山の保全のためである。生態系に悪影響を及ぼしているところ、例えば高山帯のトイレの踏み分け問題の多いところから始めていくのはどうだろうか。

■北海道大学大学院 地球環境科学研究所 教授 渡邊氏

ブースを増やしていくことは大事であり、進めていくべきである。しかし、利用者が増えてきたときに、ブースだらけになってしまわないか、という懸念がある。中長期的な視点で、携帯トイレをどこにでも作るというのではなく、登山者がどのように移動していくのか、つまり野営指定地、避難小屋の距離の配置を考えて設置するべきではないかと考えている。

■愛甲氏

回収BOXについて処理の実態、ゴミの混入についての実態、回収される方の現状の実態について市町村から聞いていく必要がある。

■美瑛町

美瑛町では観光センターに町内のゴミ収集業者が回収にいき、袋をそのまま焼却処理している。今のところ、ゴミの混入の情報はなく、ゴミ混入による問題はない。

■愛甲氏

カラビナの効果はどうか。

■美瑛町

ほかの観光客が捨てるゴミの量は減っている。回収BOXの鍵をカラビナにしたという情報をもっと広報していく必要がある。

■山のトイレを考える会 仲俣氏

カラビナにしたという広報は行っていないが、登山者はカラビナの使い方をよく知

っていると感じたのでカラビナに変更した。

■愛甲氏

メリハリつけたトイレ整備が必要。携帯トイレブースの設置のルールがこの作業部会で整理できたらいいと思う。

■(一社)かみふらの十勝岳観光協会 青野氏

530ゴミゼロという語呂合わせの携帯トイレBOXの鍵の解錠から、カラビナに変えることでトイレの回収の数が増えたのでカラビナの活用はよいと思う。凌雲閣では携帯トイレをりんゆう観光様から買っている。また上富良野町のセイコーマート、セブンイレブンでも携帯トイレが売られていて、携帯トイレが普及しているなど感じる。富良野岳の登山道で携帯トイレのブース設置をしたいという企業の相談を受けることがある。販売のパートナー登録だけではなく、携帯トイレブースの設置に関してパートナー登録も結んでいけたら良いのではと感じている。

■愛甲氏

富良野岳のトイレブースの議論も進めていきたい。

■北海道山岳整備 岡崎氏

回収BOXのゴミの回収について、沼ノ原の回収が難しいというならば、ヒグマ情報センターは北海道、環境省、上川町で管理しているので、そこで業務の一つとして月に2~3回沼ノ原の登山口の携帯トイレ回収を依頼してもらえれば回収できるのではないか。我々が行う携帯トイレを普及する活動がどこまでが生態系に良いのか、モラルとかマナーにどこまで関わってくるのか、どこまでを登山者に求めて、どこからを私達が管理していくのか、客観的に見ていく必要がある。

■愛甲氏

携帯トイレの回収BOXの件について、以前、美瑛富士の登山口の回収BOXの設置を考えたが、回収するのは困難であると判断した結果、観光センターに設置した。また、回収BOX設置後も、ゴミや鍵の問題等の試行錯誤をしてきた経緯がある。沼ノ原の場合には、回収BOXがない場合に、「層雲峡のビジターセンターには回収BOXある」と言うような掲示から始め、様子を見ながら、回収BOXの設置をしていくのはどうか。

■山のトイレを考える会 仲俣氏

おとし、沼ノ原の大沼のトイレ事情について視察をした。沼ノ原の登山口だと回収は難しいが、高原温泉との分岐すぐのゲート前に置いたら、回収業者も回収できるのではないだろうか。

■愛甲氏

これ以上意見がないようなので、旭岳周辺の登山道の携帯トイレブースの議題に進む。

■事務局

参考資料1より説明

3カ年計画で、旭岳周辺登山道の携帯トイレブースについて取り組んでいる。昨年ニセ金庫岩のところに携帯トイレブースを置いた。今年度の実施利用状況、アンケート結果、設置等の予算等も踏まえ、次年度以降維持管理体制など検討していきたい。改めて皆さんに意見を伺いたい。

#### ■Asahidake Trail Keeper 藤氏

旭岳 9 合目の携帯トイレブースをこのような形にした理由は風の影響を考慮してであり、もし必要がなくなったら、その後使用した丸太を登山道補修にも使えろと考えて作成した。常設トイレにならない可能性も考慮して、ほかのことに転用できるように作った。作り方は簡単だったのでほかの地域でも試してもらいたい。資料の中のトイレブース設置の件数費は 10 人と書かれているが 11 名が正確。運ぶのに人が必要であり、少ない費用での設置をするなら、ボランティアの協力は必須。

普及活動や、アンケート活動の中で、「トイレブースがないと携帯トイレを持って行く気にならない」という声をよく聞いた。しかし、「トイレブースがある」と聞くと、買っていかれる方も多かったので、トイレブースの設置は重要であるし、少なくとも野営指定地には携帯トイレブースは必要である。

現在、ブースは 8 分割にしてたたんでしまっている。結束バンドで結んでいるのでたむのは簡単である。運搬は 11 人で、一人丸太 2~3 本を背負い、一日 2 往復で行った。ホームセンターで購入した乾いた木を使って、重量が軽くなるようにした。

#### ■山のトイレを考える会 小枝氏

これまでの議論や資料のおかげで、課題の優先順位のイメージがわかってきた。

疑問一つ目として、資料 2 の対応方針の欄に、「関係者で検討する」というのは具体的にどうするのか。

二つ目に旭岳 9 合目の携帯トイレブースについて、毎年設置し、秋に撤去していくのか？毎年設置・撤去を繰り返すことは持続可能なのか。また、設置の費用は、業者へ出す金額なのか、もし業者へ出す金額でないのであれば、この 9 合目の携帯トイレブースの設置費用は他の場所で作る際の参考費用になるのかという心配がある。

三つ目として、旭岳 9 合目の携帯トイレブースの報告書の作成はどうなっているのか。今年度の報告書をもって次年度の検討事項にしていきたいと考えている。

四つ目として、裏旭野営指定地の携帯トイレブースの検討はどうなっているのか。

#### ■事務局

昨年 7 月の第一回作業部会では、旭岳の携帯トイレブースにかかる業務は検討中で、具体的に進んでいなかったため、旭岳の携帯トイレブースの報告はできなかった。

旭岳携帯トイレブースの設置効果検証業務については、環境省として、令和 4 年から 3 年間実施していく予定である。今年度は携帯トイレの有効性及び効果の検証であり、令和 5~6 年度は、今年度の結果を踏まえ、環境省単独ではなく、関係機関とも協働していくところから、旭岳地域におけるトイレ問題解決に向けた取組の実施、検証を進め

ていく。

また、携帯トイレブースの設置の金額について、一般管理費は含まれていない。維持管理のためのロープウェイ代は含めている。参考資料1の青色矢印のような場所で実際やっていくならこの程度の金額がかかる、というところを算出した。

今年度は2箇所の携帯トイレブースの検証予定だったが、予算の都合上9合目のみの設置だけであった。来年度は裏旭にも設置を含め検討していく予定である。

#### ■愛甲氏

小枝さんが言われた「関係者間で検討する」のことについて、優先順位を含めてどのように詰めていくのかということについては年間2回の作業部会で進めていくことになると思うが、事務局の方でも進めていただきたい。今年度の旭岳携帯トイレブースの業務の報告書は共有できるのか。中岳温泉もこの整備計画に入っているのか。

#### ■事務局

今年度業務は3月末までなので、その後報告し、みなさまの意見も伺いたいと考えている。中岳温泉のトイレ設置も含めた旭岳周辺の携帯トイレブースの検証であり、維持管理の方法も検討中である。

#### ■北海道山岳整備 岡崎氏

情報共有についてはこの協議会の存続に関わることなので、協議する事項については途中であっても情報は共有してほしい。また、環境省からも「この問題の協議が検討できる予算が付いたから」というようなことは、常々発信していくべきである。

高原温泉のトイレブースを作っているが、数年前は環境省がルールを持って、しっかりとした、利用に耐えうるものを互いに共有してから作っていたが、最近は携帯トイレブースを作る方を信頼して作らせているイメージがある。

環境省が発注者であるなら、きちんとルールを決めた携帯トイレブースの設計・設置、維持管理も含めた検討をすることで、携帯トイレブースの乱立を防げるのではないか。お金があるから、3年間やるというのではなく、そのあとの維持管理を含めた長期的な計画をしてほしい。

#### ■愛甲氏

今回の旭岳の件は事前の共有はできていなかった。今後メーリングリストで発信していく必要がある。維持管理を含めた業務の検討を進めてほしい。

#### ■山のトイレを考える会 小枝氏

情報共有について、春と冬の作業部会があるが、会議のない時期に検討したい事案が生じたときに、メーリングリストでメンバーの意見をやりとりできるようにしていくべきである。

#### ■事務局

表大雪・東大雪の登山道管理部会のメーリングリスト、大連協構成員もメーリングリストがある。作業部会には誰でも参加できるように声をかけるという考えの元、登山道

維持管理部会と大連協の構成員にも声をかけている状態であるので、作業部会だけのメーリングリストは作成していない。表・東大雪の登山道管理部会のメーリングリストを使って、作業部会未参加者も含めて、広く情報共有するのが良いと感じている。情報を流す際には事前に事務局に一報をいただきたい。

#### ■愛甲氏

資料2の対応方針について、未解決、新たな課題、解決した課題ということを作業部会の際に、皆さんで確認していけたらわかりやすいのではないと思う。

### (3) 白雲岳避難小屋付帯トイレ等の再整備について

#### ■事務局

今年度環境省が発注した白雲岳トイレ基本設計業務を担当している田辺構造設計さんにもWEBで参加して頂いている。

資料3より説明、し尿処理の技術の対象範囲について、「自然地域トイレし尿処理技術ガイドブック」に沿って検討した結果、し尿処理技術をTSS方式の土壌処理方式で検討中。これを受けて、実際に白雲のトイレの使用数の計算したところ、日帰り客60人、宿泊110人の計170人が2回使うとして、1日あたり340人回という結果を算出した。この数字を元に、トイレ再整備の設計、配置図を作成している。撤去トイレの跡地に土壌処理装置を設置するので現在よりも広い場所が必要である。

忠別岳避難小屋の整備もTSS方式を検討中。

#### ■山のトイレを考える会 小枝氏

土壌処理方式での再整備で検討中の旨、理解した。バイオトイレよりもいいと聞いているし、羊蹄山も使っているのでいいと思う。しかし、基本設計から実施設計に移る前にいろいろなことを考えてからにしてほしい。1日あたり340人回と決定してしまうのは危険ではないか。どんなデータを使ってどのような計算をし、最大値をカバーできるものなのか、日変動に耐えうるものなのか検討が重要ではないか。また、検討された根拠、データを公にすべきである。利用人数が設定されても、余裕をもたせた係数をかけた整備をするべきである。第一消化槽、土壌処理装置の面積を決めるときに、利用者数から求めた業者のいう値では必ず失敗しているという本州の話も多く聞く。失敗例も含め検討してもらいたい。

土壌処理方式が成功するかどうかはトイレにゴミを投入させないで回収できるかどうか、又使用済みのトイレ紙を持ち帰ってもらえるかどうかにかかっているのではないか。

トイレの維持管理を避難小屋管理人さんの業務に入れて発注できるのか。

約10年後には汚泥を搬出できる仕様・準備が整っているのか。

土壌処理の場所に雨水が流れ込まない様になっているかを含めて検討しているか。

トイレは二穴になっているが、追加で男性用の一穴を増やすことは可能か。



忠別岳避難小屋では管理人不在だがこの方式で管理はできるのか。

■山岳レクリエーション管理研究科 山口氏

機能しなかった黒岳トイレのことも踏まえて、トイレ設置の検討をしてほしい。機能しなかった場合のプラン B も考えておく必要があるのではないだろうか。

■事務局

今回の設計に当たって、山岳地域のトイレのガイドブックを参考に、処理方式や規模を考えている。平常時の利用者数、ピーク時の利用者数、年間の利用者数のデータから反映した、余裕を持った処理能力も考えて設計している。

トイレゴミの問題は、すべてなくすのは難しいとは思いますが、普及啓発を含めて協力してもらおう。何年かに一度の汚泥処理も整備についても考えた計画となっている。

■愛甲氏

黒岳のトイレは業者のことを鵜呑みにした結果もあるので、冷静に判断をしていきたいと思う。

■北海道山岳整備 岡崎氏

白雲・忠別避難小屋のトイレの利用人数から計算する TSS 方式の値について、処理能力は危ないと感じている、天気が良い週末などは宿泊 100 人、日帰りのお客さんもいて、一日 3 回利用すると考えると、340 人回の最大値を超えてしまう日が何日かある。トイレのゴミに関しては、管理人がトイレをかき回し、ゴミ処理している。忠別に関してはゴミだらけなので、この方式での管理で大丈夫なのだろうかと心配である。もし、TSS 方式なら、管理が必要だと感じている。

利用人数の平均値で計算するのは危険である。

■北海道上川総合振興局 中島氏

黒岳のバイオトイレは限界であり、改めなければならないと感じている。来年度国の交付金を利用し、実施設計を行う予定である。環境省の山岳トイレのガイドブックを参照すると、し尿処理技術の対象範囲は、ほぼ決まってくるのかなと感じている。黒岳のトイレの再設計については、この作業部会を通じて情報共有していくので、皆さんの意見を伺いたい。実際 TSS 方式を扱う企業に現在の黒岳トイレの現状を伝え、最大 800 人がトイレを使った場合について確認をしてもらったが、土壌処理に 40 平米、消化槽も 40 平米、併せて 80 平米という広大な面積が必要。さらに、消化槽を埋設するに当たっては深さが 3m 必要であり、黒岳周辺は永久凍土であることから、掘った場合の生態系の破壊が懸念される。早めに皆さんに情報共有し、よりよい方式を維持管理も含めて検討したいと考えている。

■愛甲氏

黒岳トイレの再整備は非常に厳しい条件である。土壌深く掘る上に相当な面積が必要であり、周辺の植生も含めて、気をつけて行っていただきたい。場所の選定、土壌処理の場所の設定等、作業部会でもっと検討していく必要がある。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

消化槽の仕組みについて、第1から第2消化槽に流れていくのは人力なのか、人力ではないのなら流れていく仕組みがうまくいかないような気がする。どのような仕組みなのか教えていただきたい。

■事務局

人力での処理はない。重力ではなく、液体の浮遊する流れを使って行うもので、地形の高低差が必要というわけではない。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

液体の浮遊、流れを使って、流すとはどういうことか。

■山のトイレを考える会 小枝氏

水の動水勾配を利用して流れを作る方法である。緩い落差があつて、流れていきながら、液体だけとなって、土壌処理装置で蒸発散をしていく方式。土壌処理方式というものを Web 検索してもらおうと判ると思う。

■愛甲氏

私の方の議事の進行はここまでとし、事務局に進行を戻す。

### 3. 報告

各構成員における取組み状況及び取組み予定について

■事務局

愛甲先生の進行のおかげでスムーズに進み、滞りなく議事のすべてを終えることができ、感謝申し上げます。ここからは構成員の報告をお願いします。

■山のトイレを考える会 小枝氏

山のトイレの取組みについて、資料 4-1 より説明。

2022 年度の取組み状況を報告している団体があまりなく、残念である。2023 年度を取組みを提出したが、なかなか全部やるというのはハードルが高いとも感じている。事務局の方で整理した課題の中の優先順位高い大沼の携帯トイレブースの設置について、私達だけではマンパワー不足で、登山者のアンケート調査等もできずにいる。もし可能ならば、皆さんと協働して携帯トイレブース設置のためのデータ収集をやりたいと考えている。

■事務局

十勝総合振興局は今回欠席だが、トムラウシ南沼汚名返上プロジェクトについては、今年度は環境省が主体となって行った事業が多いので、環境省より、資料 4-2 より説明する。

トムラウシ南沼汚名返上プロジェクトでは、携帯トイレ配布 BOX を昨年に引き続いて設置。目標とする協力金回収額 500 円には及ばなかったが、400 円弱で協力金の回収ができた。使用済み携帯トイレも、トラブルなく回収できていた。

新たな試みとして、カムイサンケナイ川にテント型携帯トイレブースを設置し、使用数は少ないが、登山者に認知された様子である。また、汚されたり傷つけられたりしたという報告もなかった。南沼野営指定地における野外し尿痕は減少し、トイレ踏み分け道も回復してきている。ほかに令和4年度の報告や意見はないか。

■北海道山岳整備 岡崎氏

小枝氏が言っていたように、報告だけではなく、課題について検討をすべきである。人数絞って意見を出していく形をとってみてはどうか。

■事務局

「検討する、協議する」だけではなく、課題に対し、どのタイミングでどのように進めていくか対応を決めて行く。

■愛甲氏

議事録を作るのはどうだろうか。今回の作業部会で、進んだこと進んでいないことを確認し、それが次の議論になるようにすすめていくべきである。決着のつかない問題もあると思うが、できていること、できていないことをまとめて行くべきである。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

どういうトイレを作れて、どういう維持管理ができる費用があるのか、何ができて何ができないのか、全体の予算をはっきりしてほしい。作ったはいいが、維持管理が難しいという感じに見えるので、大雪山協力金や寄付金など、登山者を巻き込んでやっていけるような、お金のことを含めた仕組みの話ができるといいと思う。

■事務局

維持管理を含めて、財源確保の問題は大雪山全体の問題として今後も情報共有して、あるべき姿に向けて、実現方法を協議していく。

ほかに意見がなければ、以上を持って閉会とする。

#### 4. 閉会